

# 国字問題研究会

ニューズ

1992年新年号 1992年1月21日発行 題字 見城慶和

発行=国字問題研究会

年間4回発行

8ページ 200円

郵便振替

東京2-166934

通常号 頒価100円(会員の購読料は会費に含む)

年会費 2000円

いちど、自転車に乗れるようになる  
脳の障害でもおこさない限り、体力があ  
りさえすれば、また、いつでも乗れるも  
のである。このことは、水泳・スキー・  
ピアノ・うたなどについてもいえること  
である。ただ、年令がすすむにつれて筋  
力がおとろえるから、わかいたきのよう  
にはできないが、漢字についてもこのこ  
とはいえないだ  
ろうか。いちど  
書けるようにな  
った漢字は、一  
生書けるのでは  
ないだろうか、  
ということであ  
る。いわゆる手首化である。  
すこし勉強したところによると、この  
ことは記憶と関係しているということが  
わかった。記憶には、記憶のメカニズム  
がある。そのメカニズムにのっていけば  
記憶されるのである。ある一定のことが  
記憶として定着するのは、あることの記  
憶細胞が結合しあい、脳に定着するから

## はじめ

### 漢字の手首化

田村利樹

だという。細胞は、たん白質などででき  
ている。記憶細胞が結合するのは、その  
細胞がのびていってのことである。この  
記憶細胞がのびていくには、時間が必  
要である。ある漢字を書けるようにする  
には、その漢字の記憶の細胞の結合が必  
要である。漢字記憶の細胞がのび、結合  
するにも、一定の時間を要する。

このことに着  
目して、漢字指  
導を試してみた。  
ぼくだけの経験  
から、結論をい  
うのは、せつか  
ちすぎるが、こ

のことを頭におかなかったときの指導よ  
り効果があがったようである。ピアノの  
先生は、練習曲があがってしまっから  
百日弾くようにという。これなども、記  
憶の心理学を経験上から見つけた考  
えである。今回の一〇〇六字の教育漢字  
は、この記憶の心理学をまったく無視し  
たものといえそうである。

# 大久保忠利著作選集

## 出版される

大久保忠利著作選集（全6巻・三省堂）が刊行され、このほど完結しました。

各巻の構成は表のとおりです。

- 第一巻 国語教育Ⅰ  
（説明文・文学文）
- 第二巻 国語教育Ⅱ  
（話しコトバ・作文  
・漢字・文法）
- 第三巻 生きたコトバⅠ  
（話し・聞き）
- 第四巻 生きたコトバⅡ  
（読み・書き）
- 第五巻 コトバの心理と論理
- 第六巻 大久保・日本文法

漢字教育についての論文は第二巻にのっています。

いままで、このニュースではおにも漢字教育のことについての論文・意見など載せてきました。ここでは、漢字教育と国語科の他の領域の係について述べることにします。それは、漢字教育を考える場合、あたりまえのことでもあるからです。

現在の教育の混乱は、目にあまるものがあります。原因

はいくつかあります。入試地獄、つめ込み教育、管理主義………。ここではつめ込み教育についてふれます。

つめ込み教育は、その教科の本質観の非科学性が指摘できます。国語教育においてもそれは例外ではありません。

大久保氏は、「国語教育においては、その本質が示されていない。だから、国語科教科構造の理想的なものが示されていない」のだと述べています。

今回の学習指導要領の改訂で、作文は一学年から四学年まで一〇五時間、五・六学年は70時間程度とされています。高学年のことで見てみますと、国語の時間二一〇時間のうち70時間を作文の時間に配当すると残り一四〇時間となり、これで文学・説明文・図書・

毛筆・言語事項などを指導することに なります。図書35時間、毛筆35時間の合計70時間

は、全国の学校でふつう特設されているようです。ですから、これで残りは70時間。これで、文学・説明文・言語事項などの指導をすることになります。一学期に換算すると、

学期23・3時間となります。

学期23・3時間で文学・説明文・言語事項などを指導する。

漢字教育は、週一時間は確保しないと国字研の六五〇字案でも無理です。週一時間の確保は学期11・6時間となります。

これで残りは11・7時間となりますから、これで文学・説明文の指導となります。

学校に持ち込まれている教育関係の会社からのドリル、練習帳、教材などは、指導要

領の配当時間にもとづいて考  
えられ、作成されたものがほ  
とんどです。作文指導の資料  
・教材は、指導要領の配当時  
間（一学年から四学年まで一  
〇五時間、高学年七〇時間）  
で作成されています。漢字指  
導は、各学年の配当漢字、全  
部消化の計画になっています。  
音読指導に関しての教材も各  
教科書会社から出ています。  
指導書は、指導要領の配当時  
間、そのまま展開されてい  
ます。

この指導要領、指導書、各  
教科書会社からの教材・資料、  
教材会社のドリル・教材など  
が基になって国語教育が展開  
されているのが、現在の日本  
の国語教育の現状です。この  
ような国語教育の混乱をなく  
するため、大久保氏は国語教育  
の本質を確立し、教科構造を  
示し考えました。ですから漢  
字教育も、国語教育の本質観、  
教科構造論の上に論を展開し  
てきました。

大久保氏の国語教育の本質  
感は、「言語→意識直結説」  
によっています。これまでの  
国語教育が「言語通達説」に  
よるところが多かったわけで  
すが、それだけでは不十分だ  
としたわけです。ですから、  
氏の漢字教育の論文を読むと  
そのことが具体的なかたちで  
述べられています。氏の提唱  
した漢字教育の「一セット五  
過程」「手首化」などは、そ  
の表れです。作文指導におけ  
る「書きなれノート」、文学  
の指導における「表現読み総  
合法」などもそうです。

【次ページにつづく】

# 大久保忠利 著作選集 全六巻

四六判・320頁・352ページ・予価各3,000円(税込)  
1991年11月より毎月一巻刊行

## 第1巻 国語教育I

●11月14日  
説明文・文学文

- 第一章 概論——全面発達の教育
- 第二章 説明文
- 第三章 文学文
- 第四章 表現よみ総合法
- 第五章 国語教育の歴史

## 第2巻 国語教育II

●12月14日  
話しコトバ 作文 漢字 文法

- 第一章 話し聞き——話しコトバ教育
- 第二章 作文——新しい作文指導を
- 第三章 漢字——教育基本語彙決定を
- 第四章 文法——新しい学校文法の建設

## 第3巻 生きたコトバI

●1月14日  
話し・聞き

- 第一章 コトバと論理
- 第二章 話しのかた
- 第三章 聞く能力の高めかた
- 第四章 話し合い・入讀・テキストカッション
- 第五章 ユーモアとコトバの切れ味

## 第4巻 生きたコトバII

●2月14日  
読み・書き

- 第一章 文章の書き方
- 第二章 文章の切れ味・文章上達法
- 第三章 文章の読み方・文章の味わい
- 第四章 表現よみの効用
- 第五章 コトバの魔術と思考

## 第5巻 コトバの心理と論理

●3月14日

- 第一章 コトバの本質
- 第二章 コトバの心理と論理の基礎知識
- 第三章 コトバの習得
- 第四章 スターリン、語感と、語研究の方法

## 第6巻 大久保・日本文法

●1月14日

- 第一章 新しい日本文法
- 第二章 日本文法の諸問題
- 第三章 句読点・ホー・ス・イン・ネーションの文法
- 第四章 日本文法意識化のおゆみ

### 全面発達の国語教育

氏は、教育では、全面発達の教育を目指すべきであると主張しています。ですから、各教科・領域で協力しあって教育すべきであると述べてきました。教科間のセクト主義をなくし、各教科の目標達成が、全面発達の教育につながる」と主張してきました。ですから、国語教育でも、各領域の目標の相互関係を分析し、それらがどのように固有性を保ちながら独自性を発揮したらよいかについても述べてきています。ですから、氏の考えていた漢字教育は、国語科の他の領域の目標達成を考え合わせた上でのものだったわけですね。



氏が「言語→意識直結説」によったことは全述しましたが、そのことによつて「意識」の研究にも深く立ち入っています。教育にたずさわる者にとつて、この意識の研究は、決定的に重要なことです。氏は、「意識の重層性」の自覚の重要性について言及し「意識」の形成のされ方について

も言及しています。教育者の意識がどのようなにして形成されるのか、児童・生徒の意識がどう形成されていくかは、教育の上で、もっとも中心になる点です。

話は変わりますが、よく、根性論、態度論がスポーツ界教育界などでされますが、氏はこのことについても述べています。態度も、一定の学習によつて変容するということを分析的にわかりやすく述べておられます。

氏は、こうして、あいまいだったことを深く観察し、分析し、氏の論を提起してきました。漢字教育に中心にかかわる国字研も、氏の総合的な国語教育観を参考にして研究をすすめていく必要があります。

(田村 利樹)

●小・中・高の漢字指導に役立つ●

国字問題研究会・編

## 漢字教育の基本提案

漢字過多と子どもの実態/効果的な漢字の指導法  
国字研の漢字精選の試案(1945文字の常用漢字をリストアップし具体的に精選を提案する)

国字研のブックレット

1990年8月5日発行

頒価 1000円

国字問題研究会・刊

# 漢字崇拜者の不自由さ

紺屋 富夫

## 1 香典返しのおいさつ状

謹啓  
 過般〔続柄〕□〔俗名〕  
      死去の節は御  
 懇篤なる御弔慰を忝うし  
 且つ霊前に御鄭重なる御  
 供物を賜り御芳情の程恂  
 に有難く厚く御礼申し上  
 げます 本日  
 〔戒名・法名・法号〕  
           
 〔法要日〕    日忌に当

り聊か追善の微意を表し  
 心ばかりの品を御届け致  
 し度く御受納下されば本  
 懐に存じ上げます  
 先は略儀ながら書中を以  
 て謹みて御挨拶申し上げます  
 敬 具

法要該当日  
 平成□年□月□日  
 喪主姓名

送り手にとっては便利な型  
 式だ。デパートなどで見本を

選ぶだけの手間で済む。だか  
 ら、難しい漢字が使われてい  
 ても苦にならない。そもそも  
 見本の全文を読む人は少ない  
 だろう。

受け手の方も、ていねいに  
 読むとは限らない。送り主の  
 名前しか読まないかもしれない。

しかし、あいさつ状の全文  
 を読もうとした時、はたして  
 まちがえずに読みきれるだろ  
 うか。読めない手紙を出すこ  
 とは、かえって失礼だと思う。

## 2 本字と仮名

PTA学級季員殿  
 幅季員殿  
 臨時委員会のお知らせ  
 熱さが一汐感じられる

項となりました。皆様御  
 元気で御座居ますか。い  
 つも御協力頂きまして有  
 難う御座居ます。……………

右の案内状の意味はわかる。  
 しかし、誤字が多く、また、  
 漢字を不必要なまでに使って  
 いる。

PTAの役員を選んだり、  
 その役員に文章を依頼したり  
 すると、きまったように、  
 「私は文字を知らないから」  
 と言って辞退される。漢字を

正しく知って使えるか否かが  
 役員受諾の一つのめやすにな  
 っているのかもしれない。漢  
 字を多用しない方が文章が読  
 みやすいのに、漢字を多く使  
 わないと文章にならないと思  
 っているようだ。

ところが、いざ書いてもら  
 う段になると、右のように誤

字と不必要な漢字の多い文章を書いてくる。かなは仮名であり、漢字が本字であるとの呪縛から解放されなければならぬ。

3 いい迷惑

「今、手紙を書いているんだけど、どの漢字を使うか迷ってね。紺屋さん、どの漢字か知ってる。意味からいうと、『善』の『よい』なんだけど、『良』か『好』か『佳』か『宜』か『吉』のどれが正しいのだろう。」

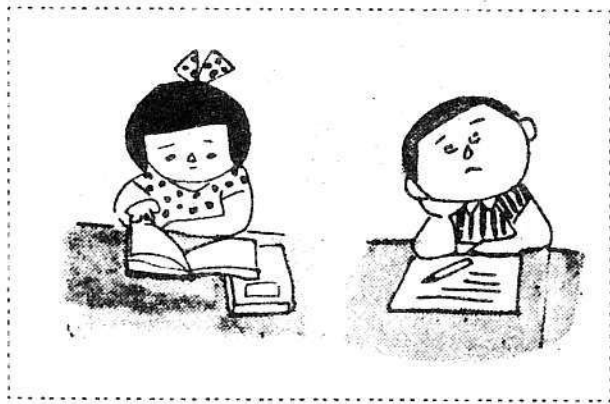
漢字をあてはめなければならぬと考えているから、漢字のところで思考を中断させあげくの果てに、他人の貴重な時間まで奪ってしまうことになる。きかれた方は、いい

迷惑である。

答えは、「かなで書けば問題ない。」である。

4 気の毒だとは思うけど

「先生、うちのタカユキに届いた同級生からの年賀状のタカユキという漢字は、全部ちがうんです。タカユキは自分の名前の漢字がちが



っていても気にしていないんですが、名前をつけた親としては釈然としないんです。……

先生から一言正しい漢字を言っていただけですか。」

正しくは、『貴通』と書く。

子どもたちが書いてきたものは、『貴道』か『貴行』であったという。

子どもたちは、なぜまちがえたのだろうか。

それは多分

(1) 呼び名から推して、考えられる漢字をあてた。(貴行)

(2)

住所録をさっと見て、似ている字をあてた。(貴道からだろう。

子どもたちが学習している範囲では、『貴通』をタカユ

# 声

一九九一年夏季アカデミー参加者の感想から

★ 参加者が明るくソフトで都内の先生は恵まれているのかなと思います。(私は管理主義の徹底されている県なので。)でも、文字を共有することによって、民主的な人間を育てるといふ認識が共通できていたら、今の教育行政にもっと怒りを持ってよいのではないでしようか。(これは非常に主観的ですが……)

(B)

★ 文字は、すべての人が共有する宝です。文字を学ぶことが、子どもたちの苦しみとつながり、差別・選別の道具となつてはなりません。ほんらい、文字を学ぶことは楽し

キとは読めない。名付けた親としてはおもしろくない気持ちだろうし、気の毒に思うが今後もくり返されるできごとであろう。

右の例は、漢字そのものの問題というより戸籍法に主因がある。しかし、密接に関連している。

5 作文を邪魔する漢字

「先生、『モンダイ』の『ダイ』は、どんな漢字なの」

教室で一斉に子どもたちが作文を書いているときに、突然大きな声で聞く子がいる。

「わからない漢字、自信のない漢字は、かなで書くんだよ。あとで読み返すときに聞いたり調べたりして正しい漢字で書きなさい。」

と答える。習った字を使えそうな語はすべて漢字で書かないと気が済まないようだ。気が済まないかどうかよりも、習った字は作文の中で使わないといけなさと教えられてきたのかもしれない。

作文は、文字通り文を作ることであって漢字の練習ではないのだから、ことばが十分であれば目的を達している。子どもの中には、たとえかなであっても文を綴っていくには抵抗が多いものもある。それはなのに、漢字を使って書くことを強制すると、それだけで圧迫してしまう。

さらに、どの漢字が当てはまるかを考えていると肝心の思考を中断させることにもなる。

人に見せるための清書の段階では習った漢字を使わせる

ことがあっても、初めから漢字を使わせることは子どもの心理を無視している。

6 何のための漢字か

子供の躰 (しつけ)  
二十五条

九、些細(ささい)な過失やいたづらは八釜(やかま)しく叱るな。  
十一、誉(ほ)め過ぎるな己惚(うぬぼ)れさすな。  
二十四、子供の要求は全部を容(い)れては我侘(わがまま)になり全部を退けては萎(いじ)ける。

(こんや・とみお)

くなくてはならない学習のはずです。そのほんらいのあり方とするために、この会の主張・主旨はすばらしいと思います。(C)

★ 野村先生の講演がたいへん良かった。日本語に意識的にかかわっていく姿勢が印象的でした。(D)

★ 参加者が五十名に達してほんとうにうれしいです。七回のアカデミーを重ねてきて確かな芽が育っているという実感も持てました。国字研の使命はますます重大である。と参加者の声を聞いていて改めて再確認させられました。来年はもっといい実践を報告したいと思います。

(東京・K・中学校)

★事務局だより★

『国字問題研究会ニュース』

第六号をおとどけます。本号の発行が、おはばにおくれ、ごめいわくをおかけしました。年四回というペースをくずさぬよう、今後ともこのろがけてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくおねがいいたします。

### 国字研事務局 連絡先の一時移転のお知らせ

とうぶんのあいだ、国字研の事務局を下記に移転いたします。連絡等はこちらにおねがいいたします。なお、郵便

振替口座は従来どおりです。会費・購読料・カンパ等の送金は、これまでどおり郵便振替でおねがいいたします。

★国字問題研究会事務局★〔一時移転先〕

〒一五七 東京都世田谷区粕谷

田村利樹方

## 第九回漢字指導法研究全国アカデミー

とき 一九九二年八月二日(日)午前九時三〇分から  
ところ 東京都教育会館(神楽坂エミール)  
参加費 三〇〇〇円(資料代をふくむ)

講演 「子どもの成長と教育」増田孝雄氏(教育評論家)  
分科会 小学校低・中・高、中学・高校など四分科会

主催 国字問題研究会

夏季の全国アカデミーもことしで九回目となりました。充実した集会にしたいとおもいます。さそいあつて参加ください。

### ●国字研の例会から●

- 10月例会 ■ 91・10・27
- 11月例会 ■ 91・11・24
- 12月例会 ■ 91・12・22

教育漢字精選の基礎作業に学習語イの選定があります。先行研究をもちより、検討しました。①大久保忠利『国語教育の体系化Ⅰ・言語要素指導』(明治図書一九六二年)は、国語辞典から一八五〇語の責任必修語イをえらびだした。②都教組荒川教研国語部会著『批判読み』(明治図書・一九六五年)は、①に集団づくりの観点をいれたもの。こうしたとりにくみをひきつぎ、国字研は漢字精選にとりくんでいます。